

ムスリムの模範としてのイエス ——イブン・ハンバル『禁欲の書』の諸伝承をもとに——

加藤 瑞 絵

Jesus as a Model for Muslims
—from the traditions of Ibn Ḥanbal’s *Kitāb al-Zuhd*—

Mizue KATO

In this article, I give abridged translations of the traditions concerning Jesus in Ibn Ḥanbal’s *Kitāb al-Zuhd*. Zuhd is known as Islamic asceticism which started in late 8th century. In the traditions I translate here, there are not only pessimistic elements such as grief, tears and aversion to this world—particular to zuhd—but also positive elements such as Love for God—particular to Sufism—, trust and contentment. In addition to that, there are some traditions relate to remembrance (dhikr) of God, woolen shabby clothes (ṣūf) and a friend of God (walī Allā). These motifs are important to examine the relation between Zuhd and Sufism.

要 旨

本稿は、中世イスラームの法学者、伝承家イブン・ハンバルの『禁欲の書』から、イエスに関連した諸伝承を取り上げて抄訳を示し、その内容を考察する。禁欲主義に特有とされる悲しみ、涙、現世放棄といった悲観主義的要素だけでなく、それらがイエスの教えであるとされる伝承であるからこそ、神への愛という、通常スーフィズムに固有とされる要素も見出される。さらに、神の想起 (dhikr) や羊毛の粗末な衣服 (ṣūf), 神の友 (walī Allā) といったモチーフも、禁欲主義とスーフィズムとの関係を考える上で興味深い。

1. はじめに

「聖書とのつながりが面白かった」, 「イエスに関する伝承が、イスラーム

ム教徒の本の中にあることに驚いた」, 「ユダヤ教, キリスト教の人物が, イスラームにおいてももしっかり認識されているのを知って, イスラームを少し身近に感じた」。これらのコメントは, 担当させていただいているイスラム文化史の授業で, イブン・ハンバル (Aḥmad ibn Ḥanbal 780-855) の『禁欲の書 (*Kitāb al-Zuhd*)』を紹介した際に, リアクションペーパーに寄せられた感想の一部である (表記を若干変えて掲載)。キリスト教に親しみ, 知識もある本学の学生たちには特に, 「イスラームの中のキリスト教とイエス」に興味を持ってもらえるように感じている。

筆者が本書に関心を持ったきっかけは, 博士学位論文執筆中, ガザーリー (Abū Ḥāmid al-Ghazālī 1058-1111) のスーフィー修行論に影響を与えた文献を調査したことであった。ガザーリーが著したスーフィズムの大著『宗教諸学の再興 (*Ihyā' 'Ulūm al-Dīn*)』の典拠の1つと推測される, アブー・シャイフ (Abū al-Shaykh 887-979) の『威厳の書 (*Kitāb al-'Azamah*)』という伝承集には, 『禁欲の書』に収録されたと同様の伝承が幾つか収録されていた。ただ, 博士論文で検討したものは旧約聖書のダビデ, ソロモンに関する伝承であり, イエスに関する伝承ではなかった。しかしその後, 禁欲主義とイブン・ハンバルの『禁欲の書』自体に興味を持つようになったこと, 加えて, 授業の際に興味関心を示してくれる学生が多数いたことから, 本書に収録されたイエスに関する伝承をより詳しく検討したいと考えた。そこで今回, このキリスト教文化研究所『年報』の誌面をお借りして, その試みに着手したい。まず, ごく限られた範囲ではあるが先行研究を整理しながら, イスラームにおけるイエスと禁欲主義について概説する。その後, イブン・ハンバルの『禁欲の書』へと検討を進めよう。

Ⅱ. 先行研究の整理と問題点

1. イスラームにおけるイエス¹

「イスラームとキリスト教/イエス」というテーマには, 歴史研究も含めて膨大な先行研究が存在し, ここで全てを網羅することは到底不可能で

1 アラビア語でイエスの名は「イーサー (ʿĪsā)」であるが, 本稿では「イエス」と表記する。その他の聖書に登場する預言者らの名も同様とし, 例えば洗礼者ヨハネもアラビア語の「ヤフヤー (Yahyā)」ではなく「ヨハネ」とする。

ある²。思想研究の範囲に絞ってみるならば、イスラームの様々な思想潮流におけるイエス像をバランスよく簡便に整理した研究としては〔Anawati 1978〕,〔Robinson 1991〕が挙げられよう。アナワティによれば、聖典クルアーンの中でイエスに言及した章は全15章、93節にのぼる。さらにクルアーン以外にも、様々な伝承や伝記、文学作品などに、イエスに関連した数多くの記述が散りばめられている。そうした伝承を紹介した研究に〔Khalidi 2001〕がある。8世紀から18世紀までの多様な著作から、総数303のイエスに関連した伝承を紹介する。本稿で取り上げるイブン・ハンバルの『禁欲の書』からも、約50の伝承を掲載している（ただ、それらはイブン・ハンバルの『禁欲の書』に収録されたイエスの伝承のおよそ半数であり、どのような基準で取捨選択したかは不明である）。

クルアーンの中のキリスト教的要素は、禁欲家やスーフィーたちに用いられるようになっていったという。イエスの清貧、現世の放棄、説教、奇跡を起こす力、祈りへの専心といった要素が強調され、彼らの著作に収められた〔Anawati 1978〕。

2. イスラームの禁欲主義

「イスラーム神秘主義」とも呼ばれるスーフィズム（アラビア語でタサウワフ *taṣawwuf*）に比べると、禁欲主義についてはあまり知られていないと思う。スーフィズムの成立以前、イスラームのごく初期から、来世と最後の審判を恐れ、現世に背を向け、懺悔と禁欲を重視する人々がいたとされる〔大塚他編 2002: 325〕。こうした運動が、類似性を持つが異なる運動として後から生じたスーフィズムと合わさり、やがてスーフィーの修行階梯の一段階として取り込まれていったと考えられている。通説として、禁欲主義は暗く、悲観主義的な雰囲気満ちており、それに対し神への愛を高らかに語るスーフィズムは明るい雰囲気であるという対比がなされている。禁欲主義とスーフィズム（そして伝承）の関係については、筆者の学位論文〔加藤 2012: 21-27〕で整理したが、それぞれをいかに定義し、かつ区別するかは、それ自体難しい課題である。というのも、スー

2 近現代キリスト教史研究者G. ミラーがまとめたキリスト教-イスラーム関係研究動向をもとに、特に歴史的研究に注目し、2000年以降の英語および日本語の重要研究を加えて現在の研究動向を整理したものに〔河底 2017〕がある。

フィーたちは彼ら自身の伝統を、イスラームの初期までさかのぼらせ、スーフィー特有の術語や修行論が成立する以前の思想家も、その列伝の中に取り込んでいるからだ³。博士論文執筆時、先行研究を踏まえて暫定的に定めた両者の定義は、次の通りである。

①禁欲主義はおよそ8世紀後半から起り、その特徴は来世と神の罰に対する恐怖や悲しみである。

②スーフィズムは9世紀中頃から後半には成立し、その特徴は神への愛や神との合一、それらに至る修行階梯の理論化である。

本稿においても、まずはこの定義に基づき、それぞれの語を用いることとする。

さて、「禁欲主義 (asceticism)」と訳される語 (zuhd) は、元来は身を慎むこと、節制を意味する。8-9世紀には『禁欲の書』と題された同名著作が複数著され、イブン・ハンバルのものも、そうした同名著作の1つである。これら『禁欲の書』に共通する特徴は、伝承集形式を採る点である。様々な経路⁴で伝わる伝承を列挙するのみで、著者（あるいは、編者と呼んだ方が適切かもしれない）の解説を一切含まない。修行論のマニュアル化が進んだスーフィズムは、12世紀以降大衆化が進み、今日まで続く伝統となったが、禁欲主義はスーフィズムに取り込まれ、やがて消滅する。その要因の1つは、こうした著述スタイルに由来する実践しづらさ、参入しづらさであるだろう。禁欲主義の研究があまり進んでいない要因にも、やはりこの伝承集形式という著述スタイルがあると考えられる。多様な、そして時には相矛盾する内容の伝承が並列して収録されるような文献を、どう解釈すればよいか。大変に扱いが難しいのである。禁欲主義に関する代表的研究に [Kinberg 1985] があるが⁵、その中でも『禁欲の書』は十分

3 こうした問題に関して、本格的な学術研究書ではないが、[竹下 2013] が近年の新たな研究を踏まえ、具体的事例を挙げながら興味深く詳述している（第3章第4節、第4章第1-2節参照）。

4 伝承には、本文（誰が何をした、誰が何と言ったなどの内容）の前に、必ず当該伝承の「伝達経路」が付されている。「AがBから伝え、BはCから伝え…」という伝達の「鎖」はイスナードと呼ばれる。イスナードの確かさは、その伝承の真正性を保証する重要な要素とされた。

5 禁欲主義をスーフィズムの文脈に限定せず、より広い視点から捉えようとする論文。「ズフド」が単に身体的な禁欲ではなく、個人の性質改善を伴うこと、社会から隔絶す

検討されず、より後代のスーフィーが著した著作を多く取り上げている。禁欲主義という運動それ自体、そして禁欲主義とスーフィズムの関係について、解明していくためには、『禁欲の書』の研究が不可欠のはずである。

イスラーム思想史において、スーフィズムだけでなく神学や哲学の代表的思想家の多くが登場してくるのは、概ね10世紀以降である。禁欲主義という初期イスラームの思想運動を解明することは、イスラーム思想研究にとって大きな意義を持つだろう。

Ⅲ. イブン・ハンバルの『禁欲の書』

イブン・ハンバルはスンナ派4法学派の1つ、ハンバル学派の学祖として有名な法学者であるが、伝承家としても知られている。また、彼自身、敬虔さや禁欲などの模範とみなされていたという⁶。時代的には、禁欲主義とは異なるスーフィズムが明確に成立するよりも、やや前となろう。『禁欲の書』は彼の息子アブドゥッラーが編集し、そこに収録された伝承の半分ほどは父であるイブン・ハンバルによらず、アブドゥッラー自身によるものだという [Melchert 2008 : 345]。

現在、2種類の校訂本が出版されている。まず1つは、1930年代中頃にメッカで出版されたもの。モロッコの写本をもとに校訂されたという。もう1つは、1970年代末から1980年代初頭にアレクサンドリアとバイルートで出版されたもの。こちらはリビアの写本をもとに校訂されたという。今回、筆者が参照できたのは、残念ながら後者のみである [Ibn Hanbal 1984]。2種類の校訂本の間には異同も多いといい、一方のみでは不十分な検討しかできない。今後、本稿の作業に加え、もう1つの版や関連文献も参照し、さらに研究を発展させる所存である。

内容に入る前に、今回参照した校訂本の構成を示そう。大きく3つの部分に分かれている。

第1巻：預言者たちの禁欲

ムハンマド、アダム、ノア、アブラハム、ヨセフ、ヨブ、ヨナ、モーセ、

るのではなく、一定の社会的関係を保ちながら実践されるものであることを指摘する。

6 イブン・ハンバルの伝記的情報や学説、著作、思想の概説は、[Holtzman 2009]などを参照。

ダビデ，ソロモン，ルクマーン，イエス，以上 12 名。

第 2 卷第 1 部：教友たち⁷の禁欲

アブー・バクル，ウマル，ウスマーン，アリーら 19 名。

第 2 卷第 2 部：後継者たち⁸の禁欲

ハサン・バスリー，マーリク・イブン・ディーナールら 16 名。

本書は，イスラームの預言者であるムハンマドの禁欲に関する伝承から始まる。ムハンマド以外の預言者については，年代順に並べられている。本書の特色は，ムハンマド以前の預言者に関する伝承を多く収録している点だという [Melchert 2011: 354]。取り上げられた 12 名の預言者たちの中で，勿論，ムハンマドに関する伝承が最多であるが，その次に多いのがイエスである。

Ⅳ. 第 12 章「イエスの禁欲と説教」抄訳

それでは，以下にイブン・ハンバルの『禁欲の書』からの抄訳を示す。通し番号と見出しは，見易さを考え筆者が付した。[khalidi 2001]に掲載されているものについては，見出しの後に [MJ*] (*にハリデー記の通し番号) で示した。なお，同一伝承ではないが極めて類似した伝承である場合には [cf. MJ*] とした。また，抄訳中の [] は，筆者による補いや言い換えである。今回は 50 番目までを掲載する。伝承の配列には著者の意図が反映されていると考えられるため，ここではその配列順序を崩さずに示した。その際，伝承経路とイエスら預言者の名に付せられた様々な賛辞は省略した。本稿では各伝承の内容把握に主眼を置くため，煩雑さを軽減したいからだ。

(1) 使徒たち (al-ḥawārīyūn) の書に語られた言葉。

試練の人々の道をたどるならば，あなたは預言者と敬虔な人々の道をた

7 ムハンマドから直接教えを受けた，第 1 世代のイスラーム教徒のこと。ごく短時間，ムハンマドに面会しただけ者も含む。後世の信徒にとっては，ムハンマドに次いで，彼ら教友たちも重要な模範とされる [大塚他編 2002: 535]。

8 ムハンマドには面会していないが，教友たちから直接教えを受けたイスラーム教徒のこと。

どる。希望の道を行くならば、あなたは彼らとは異なる道を行き、彼らの道を外れる。

(2) イエスが使徒たちに語った言葉。 [cf. MJ 10]

あなたがたは、神に敵対する人々への嫌悪によって神を愛しなさい。彼らへ憎悪によって神へと近づきなさい。彼らへの不満足によって神の満足を求めなさい。あなたがたの行為の中にその言葉を増やす者、その視線があなたがたに神を想起させる⁹者、その行為があなたがたを現世から退かせる [禁欲させる] 者とともに座しなさい。

(3) 神がイエスに下した啓示。 [MJ 25]

イエスよ、あなた自身に警告しなさい。あなたが教訓を得たならば、人々にも警告しなさい。人々が私 [神] の前で恥じ入らずに済むように。

(4) イエスの逸話。 [MJ 26]

使徒たちの幾人かと共に外出していたイエスが、ある墓の前で止まった。墓の主 [墓に埋葬される者] がその中へと導かれる [埋葬される] ところだった。彼らは墓の暗さとその孤独、その狭さを思った。それに対し、イエスは次のように答えた。「あなたがたは既にそれより狭いところ、母の子宮にいた。神が広くしようと望まれば、広くなる。」

(5) イエスの言葉。 [MJ 27]

神を想起すること、賞賛すること、聖なるものとするを多くしなさい。神に従いなさい。神の満足に足る祈願の例。「神よ、私の過ちを赦して下さい。私の人生を善きものにして下さい。おお、私の神よ、嫌悪されるものから私を遠ざけて下さい。」

(6) イエスの言葉。 [MJ 2]

彼の舌を沈黙させる者、彼の家が彼らを住まわせるに十分な者、その過ちを思い泣く者に祝福あれ。

(7) イエスの言葉。 [MJ 28]

9 テキストでは「あなたがたがあなたがたに想起させる (tudhakkiru-kum)」とあるが、後の「彼の行為があなたがたを禁欲させる (yuzahhidu-kum... 'amalu-hu)」の構文と一致させ、「彼の視線があなたがたに想起させる (yudhakkiru-kum...ru'yatu-hu)」と読む。「想起 (dhikr)」は、後にスーフィズムの伝統においては、代表的な修行法の1つとして確立される。

信仰者 (mu'min)¹⁰ に祝福あれ、彼の [死] 後に神がその子孫を守って下さる者に祝福あれ。

(8) イエスの言葉. [MJ 29]

あなたがたの1人がその右手で喜捨を差し出すときには、それを左手から隠しなさい。礼拝するときには、門の帳 (hijab) を彼に近づけ [て覆い] なさい。神は糧を分け与えるのと同様に、賞賛も分け与えられる。

(9) イエスと使徒たちの問答.

使徒たちがイエスに、神に対して忠実であることや誠実であることは何かを尋ねた。イエスは次のように答えた。神に忠実であることとは、神のために行われし、人々が彼のために彼を称賛するよう望まないことである。神に誠実であるとは、神のこと (haqq)¹¹ から開始し、人間のことよりも神のことを優先させ、来世の事柄から開始し、そのあとで現世の事柄に専念することである。

(10) イエスとある男の問答. [MJ 30]

ある者がイエスに、もしロバを得たならば、あなたはそれを必要とし、それに乗るか尋ねた。イエスは神のお陰で、何かに忙殺される必要がないほど高貴である [ので、無用である] と答えた。

(11) イエスと使徒たちの問答. [MJ 31]

イエスは使徒たちに誓って、現世も来世も望んではならない、と語った。使徒たちがイエスに説明を求めた。イエスは次のように答えた。「現世を望むならば、あなたがたは現世の主 (rabb) に従うだろう。現世の主は、その手で現世の宝庫を開ける者であり、あなたがたに [その宝を] 与える。もし来世を望むならば、あなたがたは来世の主に従うだろう。来世の主は、来世を支配し、それをあなたがたに与えるだろう。あなたがたは、これも、あれも、求めてはならない。」

(12) イエスが使徒たちに語った言葉. [MJ 3]

神を想起するのではない言葉を多くしてはならない。それはあなたがた

10 基本的にはイスラーム教徒を意味する語として用いられ、広義にはイスラーム教徒以外の一神教徒も含まれる。不信仰者の対概念 [大塚他編 2002: 959].

11 haqq は「真理、正しさ、所有物、義務、権威、権利」など多義的な語である。ここでは、神と人間それぞれに正当に割り当てられた事柄というほどの意味で用いられていると解釈する。

の心を頑なにし、心が頑なである者は、神から遠い。主のように〔上からの立場で〕人々の罪を見るのではなく、下僕のように自らの罪を見なさい。人間には、〔試練を逃れて〕自由な者と試練を受ける者がある。試練の中にある人々に慈悲をかけなさい、自由な者のために神を称賛しなさい。

(13) イエスと〔使徒たち〕の問答。[MJ 32]

彼らは、最も誠実な〔神への〕奉仕(‘ibādah)¹²とは何かと尋ねた。イエスは、神に対し謙虚であることだと答えた。

(14) イエスの言葉。[MJ 33]

天にあなたがたの宝を置きなさい。というのも、人の心は、その者の宝とともにあるのだから。

(15) ある修道士が伝えた逸話。[MJ 34]

イブリース(Iblīs)¹³がイエスを聖なる館(bayt al-muqaddas)¹⁴の上に置き、彼を試みて次のように言った。「お前は死者を生き返らせると言った。そうであれば、神にこの山をパンに変えるよう祈れ。」イエスは「全ての人間がパンによって生きるのではないか」と答えた。イブリースはイエスに「お前がお前の言った通りであれば、この場所から〔降りて〕戻れ。天使がお前を見つけ〔て助け〕るだろう」と言った。イエスは答えて、神が彼にそのようなことを試みるなど命じたことを述べた。

(16) イエスの奇跡にまつわる逸話。[MJ 35]

使徒たちがイエスを探していると、彼が水の上を歩いているところを見つけた。使徒たちの幾人かが、「神の預言者よ、私たちはあなたの許へ歩けますか?」と尋ねた。歩けるとのイエスの答えに、水の上に足を進めた

12 イスラーム教徒の基本的な義務行為は、同語の複数形「イバーダート」の名称で呼ばれ、しばしば「儀礼行為」と訳されている。

13 クルアーンに登場する悪魔。元来は天使であったが、神の命令に背いたために楽園を追われ、人間を惑わす存在となった。

14 アラビア語で「聖なる館」と呼ばれるものは3つある。①メッカのカアバ神殿。②エルサレムの町自体 [大塚他編 2002: 219]。③エルサレムにあるアクサー・モスク。預言者ムハンマドはカアバ神殿から同モスクへと夜の旅をし、岩のドームから昇天したと伝えられている ([イブン・イスハーク 2010-2012 (1): 411] など)。この伝承はマタイによる福音書 4:1-7 とほぼ同一内容であり、その中では悪魔がイエスを「聖なる都」へ連れて行く。それを踏まえ、ハリデーは②の意味で he placed him in Jerusalem と訳している。「~の上に (‘alā / on, upon)」という前置詞の使用や続く内容に合わせ、ここでは「聖なる館」のまま訳出した。

が沈んでしまった。それを見てイエスは次のように言った。「信仰の足りない者よ。もし人間たちにほんの少しの重さの確信 (yaqīn)¹⁵があったならば、水の上を歩けたであろうに。」

(17) イエスの言葉. [cf. MJ 4]

断食をしているとき、ひげをたくわえ、唇をきれいにしなさい。出掛けたならば、人々が「彼は断食していない」と言う〔断食しているとは気づかない〕ように。

(18) イエスの言葉. [MJ 36]

よい行ないとは、あなたに親切にしてくれる者に親切にすることではなく、あなたに悪く振舞う者に対して親切にすることである。

(19) イエスとある女性の対話。

ある女性がイエスに言った。「あなたをはらんだ腹に祝福あれ、あなたに授乳した胸に祝福あれ。」イエスは彼女に近づいて、言った。「神の書を読み、その書の中にあるものに従う者に祝福あれ。」

(20) イエスとある女性の対話。

ある女性がイエスのもとを通りかかり、言った。「あなたに授乳した胸に祝福あれ、あなたをはらんだ小部屋〔のような子宮〕に祝福あれ。」イエスは言った。「クルアーンを読み、その中にあるものによって行為する者に祝福あれ。」

(21) 神がイエスに下した啓示. [MJ 37]

私はお前に隣人愛と彼らへの慈悲を与えた。お前は彼らを愛し、彼らはお前を愛し、彼らはイマーム¹⁶として、指導者としてお前に満足する。お前は友として、従う者として、彼らに満足する。それら〔隣人愛と慈悲〕は2つの性質なのだ。それらによって私に出会う者は、最も清浄な諸行為によって私に出会うこと、私にはそれら〔最も清浄な諸行為〕が最も好ましいことを知りなさい。

(22) イエスの逸話. [MJ 38]

15 神への「確信」とは、のちにスーフィズムの修行階梯の中に位置づけられる境地でもある。

16 シーア派においては、「イマーム」とは預言者の没後に残された人々を正しく導く、共同体の特別な指導者を意味する。スンナ派においては、集団礼拝の際に最前列で礼拝を先導する指導者を意味する。

イエスは終末の時を想起するとき、女性が泣くように泣いたものだ。

(23) イエスとヨハネの対話。[MJ 39]

イエスがヨハネに出会い、彼に助言を求めた。彼が「怒ってはなりません」と言うと、それはできないと答え、「財産を得てはなりません」と言うと、これについては恐らく「できる」と答えた。

(24) イエスの逸話。[cf. MJ 6]

イエスのもとの終末の時が想起されるとき、彼は泣いたものであった。イエスのもとの終末の時が想起されるとき、彼が静かにする必要はないのだ。

(25) イエスの逸話。[MJ40]

イエスが巡礼に向かう人々¹⁷のもとを通り過ぎた。それよりも以前に、70人の預言者たちがハイフの礼拝所 (masjid al-khayf)¹⁸で礼拝した。

(26) イエスと使徒たちの対話。[MJ 41]

イエスは使徒たちに、あなたがたの中で、誰か海の波の上に館を建てることのできるかと尋ねた。彼らは、誰にもそのようなことはできないと答えた。イエスは、「海と同様に」現世とは、あなたがたがそれを定住の住まいにできない場所であると説いた。

(27) イエスの言葉。[MJ 42]

小麦のパンを食べること、純水を飲むこと、堆肥の上に犬¹⁹とともに眠ることは、楽園を受け継ぐことを望む者にとって十分である。

(28) イエスの言葉。[MJ 43]

知識の多さは、あなたがその知識に従って行為しないならば、驕りを増すだけである。

(29) イエスの言葉。[MJ 44]

時は3つの日の上にめぐる。昨日は過ぎ去り、あなたはそこから教訓を

17 直訳は「ラッバイカと唱える人々 (mulabbiyan labbayka)」。 「ラッバイカ」はメッカ巡礼の際に唱える言葉で、「あなたの御前に参りました」という意味。この言葉をタルピヤと言い、巡礼者は一連の巡礼行事の中で、これを繰り返し唱える。[大塚他 2002: 621-622]

18 メッカ巡礼の巡礼地の1つであるミナーの礼拝所。

19 イスラーム教徒は犬を不浄な動物とみなすことが多い。人間を犬と同等、あるいはより低くみなし、謙虚さを求めるような逸話は、しばしばスーフィー列伝にも伝えられる。例えば [アッタール 1998: 171-2]

得る。今日は、その中であなたにより多くのものを与える。明日は、その中であなたに何があるかを [まだ] 知らない。事柄は3つの上にくめぐる。あなたに正しい行為を命じるので、それに従うべきこと。あなたに正しい道から逸脱することを命じるので、そこから離れるべきこと。あなたにとって疑わしいので、その全てが神に委ねられるべきこと。

(30) イエスの言葉。 [MJ 45]

私に尋ねなさい。私自身は取るに足らない小さな者であるけれども、私の心は柔軟であるのだから。

(31) イエスの言葉。 [MJ 46]

自ら学び、行為し、知る者は、天の王国において偉大な者 ('azīm)²⁰ と呼ばれる。

(32) 奇跡に関する問答。 [MJ 47]

どのように水の上を歩くのかと問われたイエスは、確信によって [歩く] と答えた。また、人にとっては石と泥と金は同等の価値ではないことを説いた。

(33) ある男とイエスの問答。 [MJ 48]

ある男がイエスのもとにやって来て、善の教師よと呼び掛け、「あなたが知っていて、私が知らず、私にとって有益で、あなたを害さないものを教えて下さい」と言った。それは何かとイエスが問い返すと、男は「下僕が真に神を畏れるとは、どのようなあり方ですか」と尋ねた。イエスは次のように答えた。「あなたの心から真に神を愛し、神のために勤勉に行為なさい。あなたの糧は、あなたが得るのではない。あなたの種族の子孫たち [アーダムの子孫、すなわち人間] にあなた自身へ [と同様] の慈悲をかけなさい。……糧を得られることを望んだり、他者にあなたが糧を与えようとしたりしないならば、あなたは真に神を畏れている。」

(34) イエスの逸話。 [MJ 49]

イエスが彼の仲間のために食事を作り、彼らを呼び、イエス自身がしたように作り、もてなす²¹ と言った。

20 神の美称 (「慈悲深き御方 (al-Rahmān)」や「慈愛遍き御方 (al-Rahīm)」など、神に備わる諸性質を示す神名) の1つ。

21 テキスト註にある通り、al-qurrā' (クルアーン朗誦者) ではなく al-qiran (親切なもてなし) と読む。

(35) イエスの逸話. [MJ 50]

死者を生き返らせるためにイエスが彼の使徒を遣わしたとき、彼らに向かってイエスは次のように言ったものであった。「このように言いなさい、このように言いなさい。あなたがたが震え、涙するのを見つけたならば、そのときには〔神に〕呼び掛けなさい。」

(36) イエスの言葉.

預言者たちは羊の乳を搾り、ろばに乗り、羊毛の粗末な衣服 (sūf)²² を着たものだ。

(37) イエスが使徒たちに語った言葉. [MJ 51]

イエスは使徒たちに誓って、現世への愛を強めるならば、災厄への不安が強くなるだろうと言った。

(38) イエスと使徒たちの問答. [MJ 52]

使徒たちがイエスに、恐れや悲しみのない神の友 (awliyā' Allāh)²³ とは誰かと尋ねた。イエスは、人々が現世の外面を見るときに、現世の内面を見る者たち、人々が現世の今を見るときに、現世の結末を見る者たちだと答えた。……彼らは死の想起を好み、生の想起を消し去った。彼らは神を愛し、神の想起を愛し、神の光によって照らされ、その光によって輝く。彼らのために驚嘆すべき伝承がある。彼らのもとに、驚嘆すべき伝承がある。聖典 (al-kitāb)²⁴ は彼らに関わり、彼らは聖典に関わる。聖典は彼らを語り、彼らは聖典を語る。聖典は彼らを知り、彼らは聖典を知る。彼らが獲得するものなしには利益は分からないし、彼らが望むものなしには安全も分からず、彼らが用心深くするものなしには、恐れも分からないだろう。

(39) イエスの言葉.

あなたがたは行為によらずしてそこで糧を与えられるのに、現世のために行為する。あなたがたは行為によってのみそこで糧を与えられるのに、来世のために行為しない。悪しき学者たちの判断で、あなたがたは金を得

22 スーフと呼ばれる粗末な衣服をまとい、修行を行なった人々が「スーフイー」と呼ばれるようになった。

23 クルアーンでは、アブラハムが「神の友」と呼ばれる。スーフイズムの修行者に対する呼称としても用いられ、しばしば「聖者」と訳される。

24 直訳は「その書」であるが、クルアーンないし聖書を意味する。

て行為を失い、現世から草場の陰へと急ぐことになろう。神はあなたがたに断食と礼拝を命じたように、あなたがたに反抗を禁じ給うた。知者でありながら、最も優れた望みとして来世より現世を好む者とは、どのような者であろうか。……知者でありながら、語るために言葉を求めても、それを実践するために求めることのない者とは、どのような者であろうか。

(40) ヨハネとイブリースの対話

ザカリヤの子ヨハネ²⁵のもとにイブリースが現われ、ヨハネはイブリースの上に、あらゆるものの臓物を見たという。彼が見たものは何かと問われたイブリースは、それが人間たちの持つ欲求であると答えた。ヨハネの中にもそうしたものがあるか尋ねると、イブリースは「ない」と答えた。ヨハネが「私から何を取るか」と尋ねると、イブリースは次のように答えた。「お前が満腹したら、礼拝と想起に飽き飽きさせてやろう。」ヨハネは神に誓って、決して満腹しないと言った。

(41) イエスとヨハネの対話。[MJ 53]

ヨハネとイエスが出合い、イエスが彼に、「私を赦して下さい。あなたは私より優れています」と言った。ヨハネがイエスに、同様のことを言った。イエスは彼に、「私を赦して下さい。あなたは私より優れています。神があなたに祝福を与えますように」と言った。神は両者の徳をご存知である。

(42) ヨハネ殺害に関する逸話。

ヨハネが殺されたとき、彼の仲間のうちの幾人かが、その[服の]持ち主に言った。「神の預言者ヨハネの服を送って下さい。私は、私が殺されたことを知っています。」それで彼は服を送った。その服が与えられ、その横糸は繊維²⁶であった。

(43) イエスの逸話。[MJ 54]

姦通を犯し、石打ちを命じられた男がイエスのもとに来た。イエスは、

25 以下、幾つかの伝承に登場する「ヨハネ」も、全て洗礼者ヨハネのことを語っている。「ヨハネ」としか書いていないところも、その名の後に預言者のための祈願文「神が彼に祝福を与えますように (sallā Allāh 'alay-hi)」が添えられている。そのため、イスラームの伝統においても預言者とみなさる「洗礼者ヨハネ」であると分かる。

26 If は、ヤシなど植物の繊維を意味する。聖書によれば、ヨハネはらくだの毛衣を着ていたとされるが、そうではなかったという説明であると思われる。

彼の行為〔同罪〕を為した男は、石を投げてはならないと言った。ヨハネ以外の者たちが、その手から石を投げ捨てた。

(44) ヨハネの逸話。

少年たちがヨハネを遊びに誘ったが、神が彼らを創造したのは遊ぶためであるかと諭した。

(45) ヨハネに関する言葉。

天から呼び掛ける者の呼び掛けの言葉。ヨハネは、女性が産んだ者の主(sayyid)である。ゲオルギオスは殉教者たちの主である。

(46) ヨハネの逸話。

ヨハネは過ちを犯すことを心配してはいなかった。彼の心には、女性はいなかったから。

(47) ある人物との問答²⁷。[MJ 55]

神にとって最も好ましいものは異邦人であると彼が言うと、異邦人とは誰かと問われた。異邦人とは、復活の日、彼らの信仰を保持しつつ、イエスのもとへと逃げ集う者たちであると答えた。

(48) イエスの逸話。[MJ 57]

イエスは次のように語った。人々をそっとしておきなさい。あなたは人々を休息させてやり、あなた自身を忙しくなさい。彼らをそっとしておき、あなたは彼らからの称賛を求めてはならない。彼らからの非難も受けないようになさい。あなたには、あなたに課されたところのものがあるのだから。

(49) 神がイエスに下した啓示。[MJ 58]

あなた自身のために、私をあなたの関心事の如くなさい。私をあなたが戻るところ〔来世〕のために置き置かれた宝としなさい。あなたの手に〔信頼して〕委ねなさい。あなたは私以外のものを取ってはならない。そうすれば、私はあなたのために取ろう。

(50) イエスの言葉。[cf. MJ 56]

よい行ないとは、あなたに親切にしてくれる者に親切にすることではない。それは適切に報いることである。そうではなく、よい行ないとは、あ

27 この伝承では、質問する人物、質問に答える人物が誰であるか、明示されていない。ハリディー訳では、質問に答えるのがイエスである。

なたに悪く振舞う者に親切にすることだ²⁸。

V. おわりに：考察と課題

イエスがイスラームの聖典であるクルアーンについて言及してみたり、メッカ巡礼の信徒と遭遇したり、イスラームの悪魔イブリースと対峙するなど、まさに「イスラーム化」した伝承も多々見受けられたが、いかがだったであろうか。II -1 で紹介した通り、アナワティが指摘した要素——イエスの清貧、現世の放棄、説教、奇跡を起こす力、祈りへの専心——は、上記の諸伝承の中にも確かに確認できた。悲しみや泣くこと、人間の中の驕りを戒める言葉なども、まさに「禁欲主義」に見出される要素である。II -2 で述べたように、通説では、暗く、悲観的な雰囲気になった禁欲主義と、神への愛を高らかに語り、明るい雰囲気のスーフィズムという対比がなされる。しかし、上に訳出した諸伝承の中には、それらがイエスの教えとされるものであるがゆえに、神への愛や隣人愛といった「愛」が明確に語られていた。また、神の満足を求めることや、神への信頼を重視する内容は、先行研究 [Kinberg 1985] も示す通りの内容であるが、それらも「暗く、悲観的」という通説的な捉え方に簡単に当てはめられないだろう。禁欲主義の伝承の内容的広がり、時代的な変遷を明らかにし、これまでの単純化し過ぎる理解の構図を改めていく必要があると考える。「羊毛の粗末な衣服」や「想起」、「神の友」など、スーフィーの伝統に重なる要素が見出された。イブン・ハンバルはあくまで「禁欲家」であり、スーフィーとして知られる人物ではないが、彼が伝えた諸伝承を後の世代のスーフィー思想家がいかに利用していったかという点は、今後さらに検討すべき課題である²⁹。

引用文献

- Anawati, G. C. 1978 “‘Īsā,” *The Encyclopaedia of Islam*, New Edition, Vol. 4, 81-86.
 Holtzman, L. 2009 “‘Aḥmad b. Ḥanbal,” *The Encyclopaedia of Islam*, Three, 2009/4, 15-23.

28 上記 18) とほぼ同じ内容。

29 例えば [Melchert 2011] は、伝承経路の吟味を通して、イブン・ハンバルの『禁欲の書』に由来する伝承が著名なスーフィー列伝に採録されていることを解明したが、それらの内容的分析や解釈へは深く踏み込んでいない。

- Ibn Ḥanbal 1984 *Kitāb al-Zuhd*, ed. by Muḥammad Jalāl Sharaf, 2 vols. in 1, Dār al-Fikr al-Jāmi‘ī.
- Khalidi, Tarif 2001 *The Muslim Jesus : Sayings and Stories in Islamic Literature*, Harvard University Press.
- Kinberg, L. 1985 “What is meant by Zuhd,” *Studia Islamica* 61, 27-44.
- Melchert, C. 2011 “Aḥmad ibn Ḥanbal’s Book of Renunciation,” *Der Islam* 85, 345-359.
- Robinson, N. 1991 *Christ in Islam and Christianity*, State University of New York Press.
- アッターール 1998 『イスラーム神秘主義聖者列伝』（藤井守男訳），国書刊行会。
- イブン・イスハーク 2010-2012 『預言者ムハンマド伝』（イブン・ヒシャーム註，後藤明他訳），全4巻，岩波書店。
- 大塚和夫他編 2002 『岩波イスラーム辞典』，岩波書店。
- 加藤瑞絵 2012 『伝承の中の神と世界と人間：アブー・シャイフ『威厳の書』の思想研究』，東京大学（博士論文）。
- 河底佑佳 2017 「キリスト教－イスラーム関係史研究の動向と課題」，『宗教研究』第34号，東京大学文学部宗教学研究室，229-243頁。
- 竹下政孝 2013 『イスラームを知る四つの扉』，ぶねうま舎。

